

## 衛生指導課 NEWS

### 衛生管理ガイドライン普及事業の実施概要

安全で高品質な食品に対する消費者の志向が高まる中で、県産畜産物の生産段階における安全性確保対策を強化し、安全で良質な畜産物の低コストな生産体制の推進により当県畜産の安定的な発展を図るため、HACCP方式(危害分析重要管理点)の考え方に基づく衛生管理対策を普及・推進する農畜産業振興事業団指定助成事業の「衛生管理ガイドライン普及事業」の概要は次のとおりです。

1. 事業実施期間：平成12年度～平成14年度
2. 事業内容

#### (1) 普及啓発会議の開催

県の指導のもと関係機関・団体、獣医師会及び生産者団体等を構成員にした事業推進会議を年2回開催し、事業の適正かつ円滑な実施を図る。

#### (2) 危害因子対策支援

モデル農家を選定し、県が検討しているHACCP方式による衛生管理ガイドラインに基づいた衛生管理を指導する。

モデル農家は、肉用牛5戸、養豚6戸、採卵鶏4戸とし、原則として年度毎に変更する。

#### ※平成12年度 地域別モデル農家戸数

地域/畜種	肉用牛	養豚	採卵鶏	計
下越	1	2	1	4
中央	1	2	1	4
中越	1	1	1	3
上越	1	1	1	3
佐渡	1	—	—	1
県計	5	6	4	15

#### (3) 危害因子モニタリング調査

1) 衛生管理ガイドライン普及事業モニタリング調査票(外部からの危害持ち込みの管理4項目及び農場内部の危害管理19項目)により、年3回飼養状況及び衛生管理状況について指定獣医師等により調査(評点)を実施する。

なお、平成12年度は、10月から3月の間に3回調査を実施する。

- 2) 調査時に1回、細菌等の衛生検査を併せて実施する。(検査機関/各家畜保健衛生所)
- 3) 調査結果の分析と調査対象農家に対する指導調査結果を集約、分析・検討して、対象農家毎に危害管理点の改善等措置について指導する。なお、県が別に行う「HACCP普及定着化事業」と成績が相互に利用できるよう連携を図る。
- 4) 検査対象菌は次のとおりとする。

区分	肉用牛	豚	採卵鶏
対象菌	サルモネラ属 大腸菌O-157	サルモネラ属	サルモネラ属

- (4) その他/畜産環境の清浄化に必要な洗浄・消毒機器の整備  
事業実施期間内に整備の必要性が生じた場合には計画対応する。

#### ◆食肉等の安全性評価に係る自主検査◆

農業協同組合、農事組合法人、生産者団体等が「食肉等の安全性評価のための検査基準」に基づき、食肉等の安全性評価のために実施する抗菌性物質残留検査を自主的に実施する経費に対し助成する。

#### ※平成12年度 事業実施農協等

農協名	畜種	関係委託農家数	備考
JA白根市	豚肉	11	
JA北越後	〃	8	
JA栃尾市	〃	6	2/1合併:越後ながおか
JA燕市	〃	7	

以上の事業内容をご理解いただき、平成13年度の事業申込みとともに、当該事業の目的達成に向けて関係者各位から何分のご協力を賜りたくお願いします。

### ～畜産協会からのお知らせ～

県経済連と全農の統合に伴い  
住所表示が変更になります。

住 所

〒950-1101 新潟市山田2310-15  
JA全農にいがた・第二ビル内

## 最近の家畜疾病発生状況

### 牛の疾病

法定伝染病では、平成12年3月から5月にかけて宮崎県及び北海道で、我が国では92年ぶりに牛の口蹄疫が発生。防疫措置の徹底により3戸22頭と最小発生で終息した。

ヨーネ病は33都道府県で469戸886頭が摘発され、そのうち北海道が355戸(76%)725頭(82%)を占めている。なお、北海道では発生農場において2,548頭を自主淘汰して清浄化を推進している。

届出伝染病では、平成10年に牛のウイルス性異常産の流行がみられ、アカバネ病が関東以南の37府県702頭、アイノウイルス感染症が近畿以南の14県58頭に発生し、平成11年も引き続き発生が認められた。平成12年ではウイルス性異常産の発生は終息をみている。

#### 県内の疾病発生状況

県内の監視伝染病(法定・届出)の発生は、平成10年にサルモネラ症で1戸3頭、牛白血病は平成11年3戸3頭、12年は1戸1頭であった。また、平成12年はIBRが1戸13頭に発生がみられた。

その他の疾病では、牛RSウイルスによる呼吸器病、コロナウイルスによる下痢症の発生があった。

#### 最近の主な伝染性疾病発生状況(県内)

病名	H11		H12	
	戸数	頭数	戸数	頭数
コロナウイルス病	3	46	3	65
ロタウイルス病	3	12	—	—
RSウイルス症	4	120	3	30
バスタツレラ症	16	86	1	1
クロストリジウム感染症	8	8	4	4
ヘモフィルスソムナス感染症	—	—	1	1

### 豚の疾病

監視伝染病の発生状況は、平成10年、平成11年と多発傾向がみられた。ウイルス性下痢症の発生は、平成12年は減少傾向を示しているが、PRRS、豚

丹毒は依然として数年来同様な発生傾向を示している。また、豚赤痢の発生頭数の増加傾向が憂慮される。

県内では、豚丹毒が平成11年度、食肉衛生検査センター調べで98頭が報告されている。

最近の主な伝染性疾病発生状況は、県内、全国ともに複合感染症の発生が多く見られ、レンサ球菌症、大腸菌症、胸膜肺炎、バスタツレラ症等の関与が多くなっている。

また、PRRSウイルスと他の病原体との混合感染による被害の増加が懸念される。

さらに、サーコウイルスとPMWS(離乳期多臓器性発育不良症候群)関連性や混合感染への関与などが問題視されている。

#### 最近の主な伝染性疾病発生状況(県内)

病名	H11		H12	
	戸数	頭数	戸数	頭数
バルボウイルス病	1	10	—	—
サーコウイルス感染症(含:合併症)	5	10	1	1
大腸菌症	6	23	6	55
胸膜肺炎(含:合併症)	7	19	2	22
レンサ球菌症	20	35	10	16
グレースー病	7	78	5	155
浮腫病	—	—	1	7
バスタツレラ症	3	3	—	—
バスタツレラ症+その他	3	32	3	3
レンサ球菌症+その他	—	—	1	1

### 鶏の疾病

法定伝染病では、ニューカッスル病が愛玩鶏での発生を始め、ワクチン接種鶏群での発生も見られており、適切なワクチン接種の必要性が再認識される発生であった。

届出伝染病は、マレック病、伝染性気管支炎及びロイコチトゾーン病の増加・多発傾向がみられる。

県内での最近の主な伝染病疾病の発生状況は、平成12年はマレック病が2戸46羽に発生を認めたが、急性伝染病の発生は見られていない。

(資料提供:中央家畜保健衛生所/病性鑑定課)